

日本成長戦略会議 デジタル・サイバーセキュリティWG 第1回 ～データのAI-Ready化の重要性について～

2026/2/3

株式会社フライウィール - FLYWHEEL, Inc.

会社紹介：株式会社フライウィール

米Big Tech出身者が集うデータ活用プロ集団、独自基盤「Conata」によりデータのAI-Ready化を高速に実現

2018年、Big Tech 出身者2人が起業



代表取締役 CEO
横山 直人

Facebook Japan にて新規事業開発及びパートナーシップ事業の執行役員。それ以前は、**Google Japan** エンタープライズ事業の立ち上げ等に従事。



取締役 CTO
波村 大悟

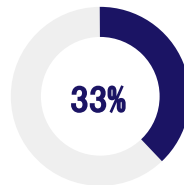
Microsoft Development にて検索及び人工知能事業の執行役員。それ以前は、**Google Japan** でコマースや決済 Google Play の検索/クーポン等を担当。



データを人々の
エネルギーに



社員数 **118** 人
*2026 年 1月時点



**Big Tech 出身の
エンジニア数 業界最大級**

日本企業における AI 活用のボトルネックは「データの未整備」

海外プラットフォームに依存しない国産AIレディデータ基盤の構築が急務



1. 現状

国内民間企業はフィジカルAI時代をみすえた **AI 活用による次世代の成長の岐路**に立っている

実業務でのAI活用は米・中・欧より遅れているが、**プロセスが整備されている**という点でポテンシャルは十分にある



2. 課題

AI の“燃料”である**データの未整備が決定的なボトルネック**となっている

企業内に存在する価値あるデータの **90%** が、図面、仕様書、日報、メールといったAI が利用できない非構造化データである



3. 論点

我が国は、この膨大な非構造化データをいかにして体系的に **AI-Ready な国家資産**へと転換し、**持続的な競争優位**を確立できるか？



4. 提案

クローズドな海外製プラットフォームへの依存を避け、**オープンな AI Ready データ基盤**を官民連携で構築

民間企業が積極投資を行えるよう具体的なガイドラインを制定し、**企業が着手しやすい環境整備**を爆速で実現すべき

AI にとって、データは“燃料”

しかし、ただ集めるだけでは意味がない。
必要なのは、AI-Ready な状態での整備。

AI-Ready データの5つの条件

- ✓ 分かりやすい構造 → 構造化、モデリング
- ✓ 適切な意味づけ → ベクトル化、ラベリング
- ✓ 高い品質 → 誤り・偏りの少ないデータ
- ✓ 統一された管理 → ガバナンス、セキュリティ
- ✓ 継続的な改善 → モニタリング&フィードバック

90%*

会社内の扱いづらい
非構造化データ
(文書/PDF等)

“AI を活かす企業”になるには、データそのものの見直しこそが成功の鍵

出典*：IDCホワイトペーパー、Box Inc：未開拓の価値：非構造化データについてあらゆる経営幹部が理解すべきこと、Doc.US51128223、2023年8月
他にも資料一覧は[こちら](#)

[参考] 事例 | 大手製造業様（図面ドキュメント構造化と活用）



解決策

図面を含む技術書をAIに取り込めるよう構造化

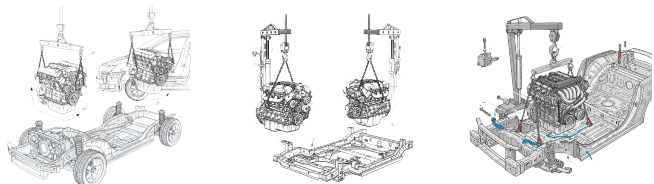


工程	エンジン	部品	エンジン搭載	組立番号	品番
分類	前提条件	内容	搭載時の姿勢	内容	対象

[エンジンを搭載するときの姿勢について]

正面から見た搭載角度は、作業者の位置によって左右どちらかに傾けて収める。どちらの向きからでも搭載できるようにする

それから、横から見たときの搭載の角度について。まずは少し傾けた状態で吊り上げて、Rrマウントという部品を先にはめてから、エンジンの前側をゆっくりと降ろすという手順で作業を進める。



車両搭載時の考慮事項

車両へのエンジン搭載時、基準状態"0"として設定

作業者が確認可能な側のRrマウント部品をフレームに先行して挿入するため、当該作業時は作業者の立ち位置に近い側を降下させて搭載

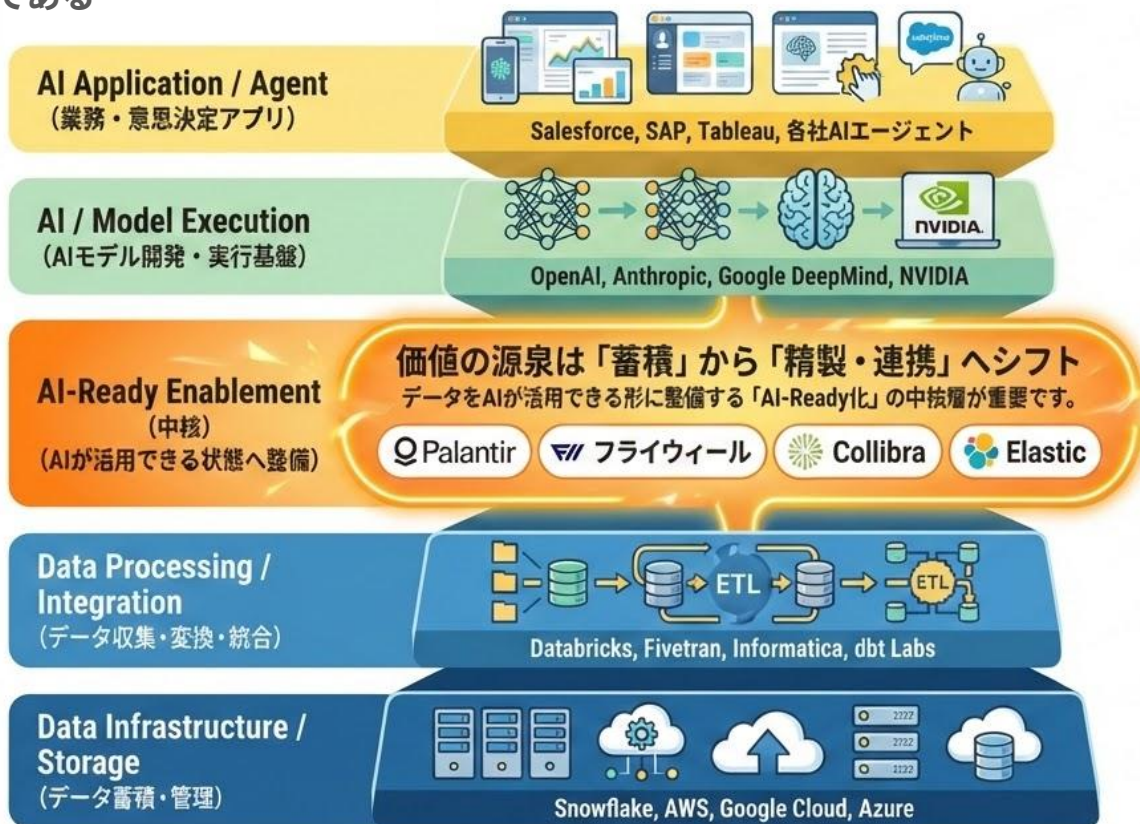
搭載作業における作業者の立ち位置は、エンジン搬送レイアウトを含むラインの状況により異なる。左右両方向からの傾きによる搭載が可能であることを事前に確認

図号	単位	数量	単位

```
`content`{
  "1":{
    "text": "# 技術報告書\n<figure>![画像url.png]{キャプション=VLMが生成した説明文}</figure>\n\n本文、\n\n",
    "tables": [
      {
        "ケーブル側": "寸法情報",
        "ハンドル側": "寸法情報",
        "事例": "69710-33060/69750-33040"
      }
    ],
    "keywords": [
      "インサイドハンドル・ベゼル",
      "部品取出し・セット",
      "手指の疾病未然防止",
      "ドアロックケーブル",
      "オーバーケーブル",
      "嵌合形状"
    ],
    "summary": "ドアのインサイドハンドル・ベゼルに関する要件書。部品取出し・セットの改善により手指の疾病を未然に防止することを目的としています。",
    "image": {
      "0001-figures": {
        "image_no": 1,
        "image_summary": "VLMが生成した説明文"
      },
      "0002-figures": {
        "image_no": 2,
        "image_summary": "VLMが生成した説明文"
      }
    }
  }
}
```

AI時代の成長戦略と各社ポジション整理

データのAI-Ready化（データ精製）は、AI開発とその利活用において非常に重要であり、日本企業成長に向けた肝である



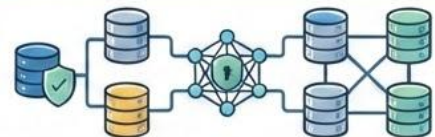
競争力の鍵となる2つのコンセプト

① データ精製 (AI-Ready化)



データを意味付けし、AIが理解しやすい形に加工・整理するプロセスです。

② データ連携 (データスペース)



管理者が異なるデータを、安全に分散型のまま連携・利用できる仕組みです。

国際的なアーキテクチャ標準化が進展

これらの技術は産業競争力強化の鍵として、国際的に検討が進んでいます。





GROWTH BY DATA

データで成長を約束する